

# 平成 26 年度気象庁関係補正予算概要 及び平成 27 年度気象庁関係予算概要（抜粋）

平成 27 年 2 月 3 日

火山観測体制等に関する検討会

平成 26 年度気象庁関係補正予算概要	3
平成 27 年度気象庁関係予算概要（抜粋）	7



# 平成26年度 気象庁関係補正予算概要

気 象 庁

・本件に関する問い合わせ先  
気象庁総務部経理管理官付  
TEL 03-3212-8341(内線2169)

## 火山観測体制等の強化

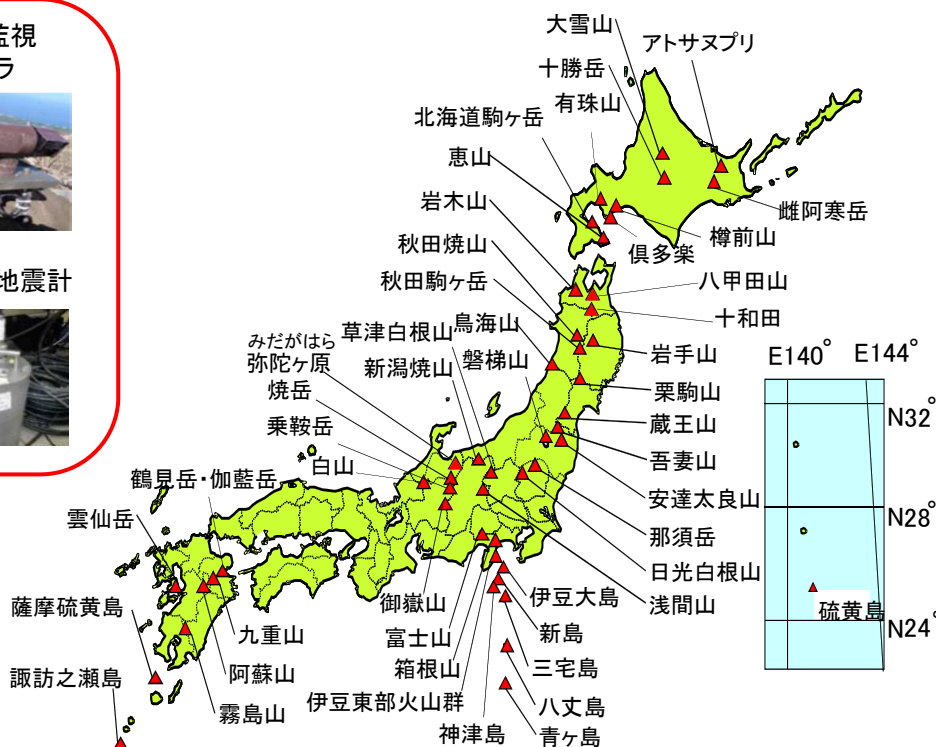
6, 491百万円

### ◎御嶽山の水蒸気噴火を踏まえた火山観測体制の強化 【5, 902百万円】

・御嶽山の噴火災害を踏まえ、火山噴火予知連絡会の下に設置した検討会における緊急提言(平成26年11月に公表)に基づき、火山観測体制の強化を図る。

#### ○火口付近への観測施設の増強

◆水蒸気噴火の可能性がある火山の火口付近の熱・噴気の状態変化、火山体内の火山ガスや熱水の流動等による山体の変化を常時監視し、水蒸気噴火の先行現象を検知するための観測施設の増強



#### ○御嶽山の火山活動の推移を把握するための観測強化

◆マグマ噴火への移行など今後の火山活動への変化をより確実に把握し、迅速かつ的確に火山情報を発表するための観測強化



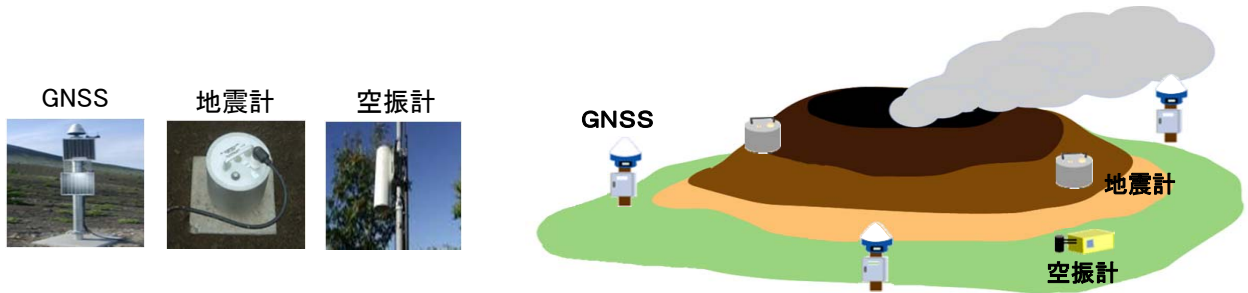
#### ○常時観測火山の見直し

みだがはら

◆八甲田山、十和田、弥陀ヶ原(立山)の3火山を新たに常時監視するため、総合観測点及び遠望カメラを整備

**◎火山観測体制の更新強化 【103百万円】**

○老朽化が進んでいる恵山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、口永良部島のGNSS、地震計、空振計の観測施設の更新

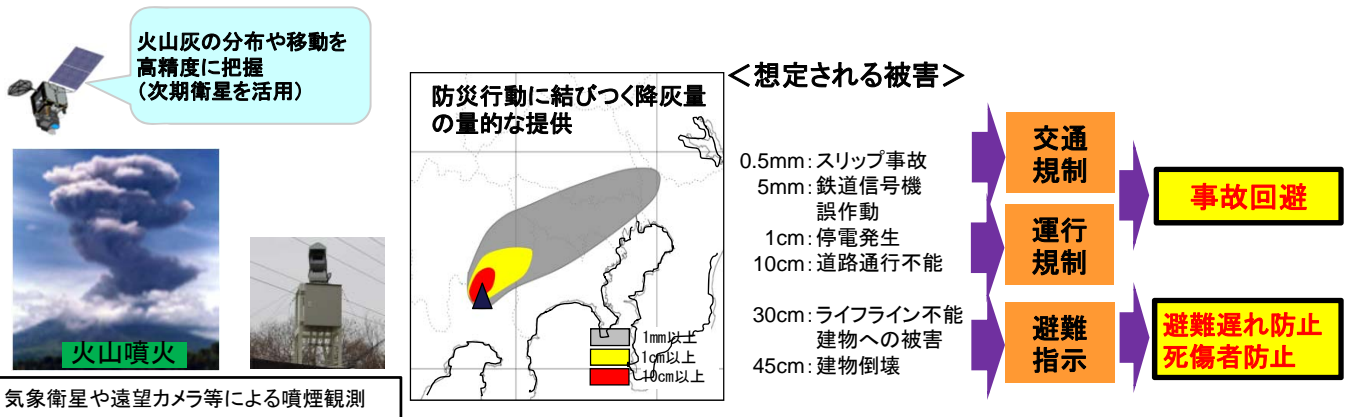


**◎噴火の発生等に関する防災気象情報を迅速に提供するための体制強化 【222百万円】**

○噴火の発生を迅速、端的かつ的確に登山者等に伝え、登山者等が命を守るための行動がとれるような、新たな情報として「火山速報(仮称)」を発表  
○火山活動等に関する特別警報が発表される場合は、緊急速報メールで伝達

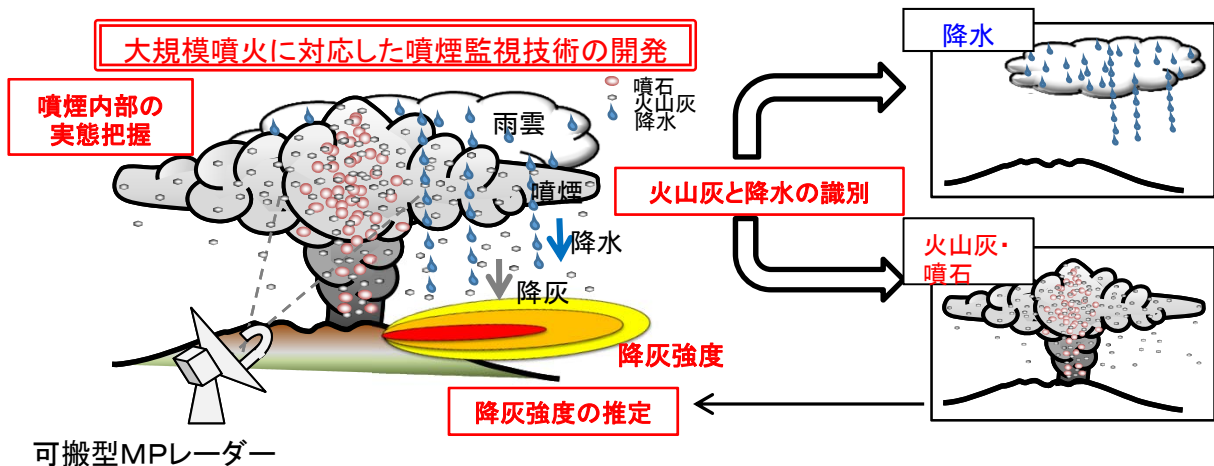
**◎降灰警報の発表 【35百万円】**

○全国の常時観測火山で高精度な降灰警報(量的降灰予報)を発表



**◎MPLレーダーによる大規模噴煙監視技術の開発 【229百万円】**

○噴煙の監視・予測技術を高度化するためMPLレーダーを活用した研究環境を整備





(火山関係抜粋)

報道発表資料  
平成27年1月14日

# 平成27年度 気象庁関係予算概要

平成27年1月

気 象 庁

・本件に関する問い合わせ先  
気象庁総務部経理管理官付  
TEL 03-3212-8341 (内線2169)

### (3) 火山観測体制の強化

194百万円 優先課題  
推進枠

◎御嶽山の噴火災害を踏まえ、火山噴火予知連絡会の下に設置した検討会における緊急提言(平成26年11月に公表)に基づき、水蒸気噴火の兆候をより早期に把握できる手法を開発するため観測施設の整備を計画的(3カ年)に行う。

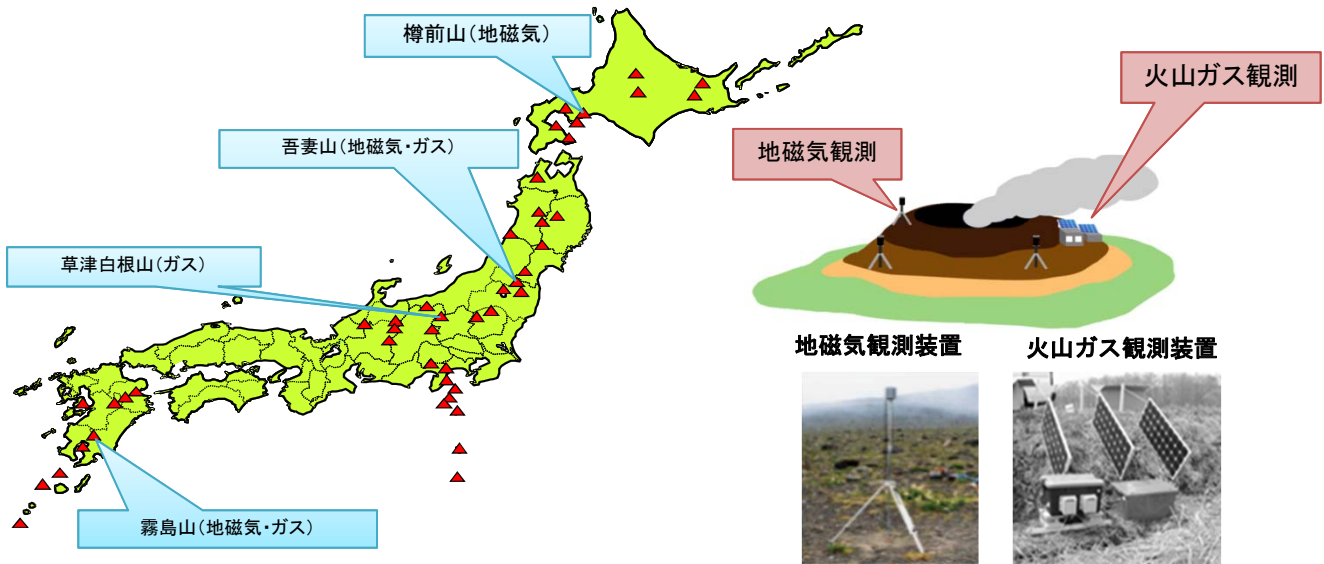
＜平成27年度計画＞

1. 地磁気観測を実施：樽前山、吾妻山、霧島山

岩石には温度が上昇すると磁気が消えていくという性質があり、地表で地磁気の変化を観測することにより、水蒸気噴火に先行する地下の温度変化を把握する。

2. 火山ガス観測を実施：吾妻山、草津白根山、霧島山

火山活動の程度に応じて変化する火山ガスの成分や濃度について観測し、水蒸気噴火の兆候を把握する。



### 《参考》平成26年度補正予算(第1号)による措置

◎火山観測体制等の強化	6,491百万円
1. 御嶽山の水蒸気噴火を踏まえた火山観測体制の強化 (火口付近への観測施設の増強、御嶽山の火山活動の推移を把握するための観測強化、常時観測火山の見直し)	5,902百万円
2. 火山観測体制の更新強化 (恵山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、口永良部島)	103百万円
3. 噴火の発生等に関する防災気象情報を迅速に提供するための体制強化 (火山活動等に関する特別警報が発表される場合は、緊急速報メールで伝達)	222百万円
4. 降灰警報の発表	35百万円
5. MPLレーダーによる大規模噴煙監視技術の開発	229百万円